

平成19年度第1回鹿児島市地域情報化推進委員会概要

1 開催日時

平成19年9月4日（火）10：30～

2 開催場所

鹿児島市役所東別館9階特別中会議室

3 出席者

- (1) 委員12人（池堂委員、市原委員、宇都委員、久保委員代理、坂元委員、萩野委員、久永委員、平田委員、吹留委員、藤田委員、宮之原委員、森委員）
- (2) 事務局8人（森市長、新地企画部長、情報政策課長、情報政策課5人）

4 会次第

- (1) 開会
- (2) 委嘱状交付
- (3) 市長あいさつ
- (4) 委員長及び副委員長選出
- (5) 地域情報化計画及び本委員会の位置付け
- (6) 報告・協議
 - ア 第二次鹿児島市地域情報化計画の策定
 - イ 「鹿児島市地域ITプラン21」の総括
 - ウ 情報化の現状
 - エ 意見交換
- (7) 閉会

5 議事の概要

(5) 地域情報化計画及び本委員会の位置付けについて

事務局	（資料に基づき説明）
委員長	今回の計画期間は5年間か。
事務局	近年の情報通信関係の進展の速さを考慮して、5年間にしている。

(6)ア 第二次鹿児島市地域情報化計画の策定

事務局	（資料に基づき策定体制及び策定スケジュールについて説明）
委員長	今回パブリックコメントがスケジュールに入っているが、これについて何か補足説明はあるか。
事務局	庁外体制はこの推進委員会になるが、このほかに市民の皆様の意見を頂くためにパブリックコメントを予定している。 本市では平成16年に市民参画推進条例を制定し、市の重要な計画を策定

	<p>する場合、また色々な施策を推進する場合、重要だと思われるものについては、パブリックコメントを実施するように決めている、本計画も市政にとって大変重要なので、同様の手続きを取らせて頂く。このパブリックコメントは、主に1か月の間に市民の皆様方からご意見を頂くものである。</p>
委員長	<p>我々委員は第2回会議で9割方の意見を出してしまうということだが、第3回はパブリックコメントに対する意見を出していくことになるようなので、覚悟してかからなければならない。</p>
委員	<p>委員はどういった働きをすればいいか。推進本部の出した方針に対して意見を出すという役割になるのか、ここの委員会で何かしらのアウトプットを出さないといけないのか。</p>
事務局	<p>事務局の方で皆様の意見を取りまとめて、ご提言という形でまとめたいと考えている。ご意見番というよりは、いい計画を立てていく為には役所の中だけの協議ではどうしても限界があるので、委員の皆様の大所高所からの、あるいは市民の目線、生活者の目線からのご意見を頂くものである。これを受けて、最終的には推進本部の方で決定するが、皆様方のご意見をとにかく可能な限り沢山取り入れて、いい計画を作るという考えである。</p>

(6)イ 「鹿児島市地域ITプラン21」の総括

事務局	<p>(資料に基づき進捗状況及び鹿児島市ITプラン21懇話会委員の主な意見について説明)</p>
委員長	<p>ホームページには、ITプラン21の計画自体はわかり易く出ているのか。</p>
事務局	<p>計画は掲載している。</p>

(6)ウ 情報化の現状

事務局	<p>(資料に基づき国の動向及び情報化に関する市民アンケートについて説明)</p>
委員長	<p>アンケートの結果が年代別に出ており、市民全体としてはどうかということがわかったと思う。前回の委員会でも、情報弱者についてはかなり議論しており、特に既存のヒューマンインターフェイスと、ITによるインターフェイスの両方を残す必要があるのではないかという提言をずっと行ってきた。費用対効果の面から、高齢者の方に情報機器を自由に使えるように指導する事と、既存のシステムを残す事とどちらがいいのか考えると、やはり既存のインターフェイスを残す方がいいのではないかという流れで今まで来ている。それに対して、今回の委員会でもかなり議論が分かれるところかも知れないが、それを踏まえて意見を出して頂くと有り難い。</p>

(6)エ 意見交換

副委員長	<p>アンケートの結果を聞いてからの感想だが、高齢者のインターネット利用率というのが全国的に見て明らかに低い。50歳以上の利用率の低さというのが目立つ。インターネットが普及する以前の世代と、普及した後の世代との</p>
------	---

	格差という面が強い気がする。やはり高齢者を考えた I T 戦略が、鹿児島の場合は特に重要になるのではないか。
委員	こうやって前回のプランの評価を見ていると、かなりインターネットの導入が進んでいると感じた。ただ、鹿児島市の観光情報などを見た事はあるが、繰り返し見るものではないようだ。あとは必要な情報がそこにあるというコンテンツの充実を図っていく必要があると思った。
委員長	市のホームページへのアクセスでは、今も一番多いのは交通局だろうか。
事務局	交通局の時刻表が一番多いようである。
委員	私も高齢者が一番問題かと思う。機械に対するアレルギーが年配の方には多い。そういう中で、この電子化をどう進めて行くのか。やはりお子さんがパソコンを買っても、お子さんが使うだけで、お年よりは触らないといった形がしばらくは続くだろうと感じている。そう考えると、先程意見が出されたような、一方で I T 化を進めながら、もう一方でヒューマンインターフェイスをどうやって残していけるのか。費用対効果を踏まえてどういうふうに進めていけるのか。その辺りが大きな課題になってくる気がする。時代が進むにつれ、I T 化は進めて行かないと、遅れてしまうと将来的には色んな部分で社会的に立ち行かなくなる。そう考えると、やはり情報格差を作らずに、あるいは最小限に食い止めながらどう進めて行くかが、一番大きな課題になってくるだろう。
委員	私は比較的インターネット等についてはヘビーユーザーの方なので、デジタルデバイドについては、少し感覚的には理解できない側にいる。市民のパソコン講座の講習をやった時 90 代の高齢者が生徒で来られた。ドイツにいる曾孫さんとメール交換をしたいということだったが、その方は、例えば「は」と言うのが H と A を入れるということも知らなかった。それでも目標があるので、かなりモチベーションは高く一生懸命やられていた。そこで感じたのだが、結局基本的に必要なものは人は自ら覚えるわけだ。 今 I T プラン 2 1 の総括を見せて頂いたが、どちらかと言うと情報発信型であり、コミュニティ的なところは逆にまだ進んでいない。それは、市民の皆さんにまだそこまでニーズがなくて、市のホームページ等にそういった機能はあまりいらんと思う、そこでの情報交換というのは重要視されていないのかなという気がしている。そうは言っても、今までのご意見にもあるように、だんだんこれが必要な時代になってくる事は間違いない。できたら電子市民ひろばなども具体的に推進して頂き、そういうものがあると私共も活用するのではないかと思う。
委員長	確かに発信ばかりしている。受信がないという形になっているようだ。今回の計画では、情報を発信して、ネットの中で上手く回転できるようなことも考えなければいけないかも知れない。
委員	よりわかり易く、バリアを取り払ったような計画を立てていかないといけない。色々な人がいる中で、バリアがなくなる事で利用率が上がり、多くの

	<p>人が利用できる環境になるので、そういうバリアを取り払うという事が大事なのではないかと感じている。</p>
委員	<p>私は住民基本台帳カードを1回も使っていない。実際に使う方法や、利用に関する情報についてあまり知らない。住民基本台帳カードは証明書をもらう時に顔写真がついているので、免許証のかわりに利用できるわけだが、そういう活用できる場所を認識されていないというところが一番問題ではないか。最近、この住基カードも、図書館のカードとか施設で使われているようだ。宮崎市かどこかでは、図書カードに併用したら登録数が増えたという。そういうものをどんどん広げていけばいいのではないか。活用する場所も、例えば1つのカードでも色々な所で使えるようにして行けば、その場所の活用も高まる。そういう機会を作っていくということである。</p> <p>それと別に、色々なウェブサイトがあるが、現在は皆“点”であり、その点と点がなかなか結び付いていない。そういうものを、面にしていったり、線にしていったりして、皆が気付く場所に置くということが必要である。そういう相乗効果というものを、今からこのプランの中に入れていってはどうか。先程の話にあったように、情報の発信だけではなくてインタラクティブに、お互い双方向で物事をやっていくというようなITの活用化が必要だと思う。</p>
委員	<p>私は、SOHOをやっているが、私の住む地域ではISDNしか利用できず、実家ではADSLが利用できる。データのダウンロードの所要時間に犯罪的なほど差があるので、これはどうにかして頂きたい。</p> <p>私の住んでいる地域は非常にお年寄りが多いが、そのほとんどの人達が必要としない、あるいはメリットが見えない。ここが問題だと思う。インターネットを利用すればこういうメリットがあるというのを皆さんにお知らせすれば、そういうメリットがあるのならば、ちょっとやってみようかなと思われるだろう。</p>
委員	<p>やはり高齢者の方は、必要としない、メリットがないということを感じているのかなと思う。高齢者の方々にもっと近付いてもらえるように、こちらから近付いていく必要があるのではと感じており、それには、やはり何かに付けて非常に便利ですよという情報が大事だと思う。あまり押し付けがましくない程度に、いつでも情報ツールに親しめる、馴染めるという環境を作って頂ければと思う。</p> <p>また、パソコン等を見ていると、あまりにも横文字が多く、自分の世代にしては普通に分かっているつもりでも、やはり訳の分からない横文字ばかりだなと感じる事がある。鹿児島だけでもいいので、高齢者が分かり易いような言葉で情報ツールに親しめる方向に持って行ければいいのではないかと感じた。</p>
委員	<p>IT化というのはそれ自体が目的ではなく、何か本来の目的があって、それを実現したり課題解決する道具でしかない。しかし、何となくこの委員会</p>

	<p>が国の政策を下ろして来て、鹿児島市ではどうしようという感じで、ITそのものが目的になっているようで、何の為にIT化するのか私にはまだ見えていないところがある。本市のIT化に関する地域特性を、事務局はどの様に理解されているのかお伺いしたい</p>
事務局	<p>本市ならではの地域特性、特長というのはお示しするのは困難かと思う。ただ先程、この委員会の目的、本市の取組みがIT化ありきというご趣旨の事を言われたが、そうではなく、今計画の素案、たたき台としての構成は、鹿児島市民の生活を考えた、市の基本構想、総合計画の方向性を反映させている。総合計画のコンセプトの推進のために、どのようにIT化を進めていくかという内容が私共が考えている計画の案である。とにかくIT化が先にあるのではなく、ツールとしての考え方を基本に持っている。あくまでも市民福祉の向上の為にITをどのように活用していくかというスタンスである。</p>
委員	<p>もう1つ、ベンチマーキングだが、市の現状がどうで、それをどこまで引き上げたいという当然目標があると思う。ベンチマークをする時には、やはり他との差というのがはっきり分かっていないといけない。遅れているところが少し上がっても、元々進んでいるところが更に進んだ時にどうベンチマーキングをされるのか、少し不安感を持っている。委員長に質問だが「情報弱者」とは何か。</p>
委員長	<p>正確に言うと、「使いたくても使えない人」が弱者である。使える環境にあって使わない人は弱者と言わない。</p>
委員	<p>元々使う気もなく、ニーズもないという人は情報弱者ではないのか。</p>
委員長	<p>それは弱者とは呼ばないだろう。</p>
委員	<p>そういう人は、市では対象にされないという事か。</p>
事務局	<p>もちろん対象として考えている。</p>
委員	<p>ニーズがないのに、押し付けるといのはどうだろうか。</p>
委員	<p>そうではなく、そのニーズがあるかないかもわからない、知らないからそれを知らしめるという事である。</p>
委員長	<p>前回の計画は発信が中心であった。発信は全部で3種類あって、ネットを使って情報を常時公表するもの。もう1つは新しい情報、問い合わせしなければわからない、どこにあるのかもわからないものも常時発信しようというもの。それから、3つ目は行政の方でお互いの情報を作り出すという作業をやってきた。確かにもう1つ、受信の方のコミュニティをつくるとか、そういう目標が今度の最大の課題になるのではないか。</p>
委員	<p>パソコンというのは、机の上に置いてあり、広げなくてはいけないという面倒さがどうしてもあり、子ども達がアクセスしてくるのは、ほとんど携帯電話からである。先程からの、どこでもいつでもという体制を取るとすれば、携帯に向けてという形がどうしても今後は必要になってくるだろう。しかし携帯の場合、一画面で見れる情報量というのには限られている。この中でどう</p>

	<p>いうふうにしっかり伝えていくか、あるいは先々に進んでいく情報を探せるようにして行くかというのは非常に難しい。その辺のところを今後は考えていかないといけない。</p> <p>それともう1つ思うのは、電子市役所というものがあり、色々申請システムがあるが、本人確認をどうされるのか。現状でも色んな暗証番号があり、携帯でも暗証番号がないと携帯の設定が変えられないので全部手帳に書いており、本来の暗証番号の意味をなしていない。手帳を落としてしまったら誰でも入り込めるのではないか。技術的な問題なので、そういう事も考えた上でシステム作りをしていかないといけない。現場に人が来た場合には色んな認識の仕方、認証の方法があると思うが、ネット上での認証については、どういうふうにした方が一番いいのか心配している。そういうセキュリティの問題も考えていかないといけないのではないか。</p>
委員長	<p>前回計画策定時の議論で、情報化が進まないという社会は、実は幸せなのではないかなという意見があった。対人間のコミュニケーションでどうにかなっている環境で、そのほうが幸福ではないかと、そういう議論をした事がある。携帯がこれだけ普及している状況では、情報化が進まないのは単にツールが買えないということではない。もしかすると、とてもいい人間関係を基にしたコミュニティがある社会かも知れない。そこも含めたものが、今回のアンケートの数字になって表れているのではないかとも思う。これは次回の検討課題としたい。</p>
委員	<p>行政の情報化と地域IT関連の推進の両立という事になっていくだろう。行政の情報化については、ある程度のところまでは進んでいるところで、今後はやはり、どのような形で利用促進を図っていくか。単に利用を増やすのではなく、要は、具体的にどういう形で、例えば関係団体などをある程度巻き込みながら、皆に啓発、PRなどをやっていかなければいけないのではないか。</p> <p>それから、今後一番重要になるのは、情報通信基盤である。IT化を今後進める上でも、情報通信基盤の整備というのは何よりも大事だと考えており、特に国の方は2010年、これを目標にブロードバンドゼロ地域の解消を進めているところである。今鹿児島市の方でも交換局単位で大体6か所位の地域がADSLを使えない。今後は、ICTなど新しい情報化政策を進める上で一番の基盤になるので、何とか土台的な方策を真剣に考えていかないといけないと考えている。しかし、現実にはなかなか進まない状況にあり、事業者の方々の採算性の問題があり、そういった部分を何とか行政と事業者で連携しながら、どうやって作っていくかが課題である。そういう方策を考えて、計画に何とか6つの地域を早急に整備対象として都営組んでいく事が課題だろう。それがなければ、鹿児島市の全体的なIT化というのはなかなか進んでいかない。</p>
副委員長	<p>基盤整備の問題、これは鹿児島にとって大変重要な事である。指摘があっ</p>

	<p>たように、必要としていない人達、鹿児島は実はそれがいいコミュニティだということは私も思う。しかし、インターネットやIT技術を使うと、こういう事ができるという啓発活動はやっていかなければいけないという気はしている。日本の地方都市共通の問題だと思う。だから、鹿児島だけではなく、他の似たような自治体と連携していくというのも必要なのだろう。</p>
<p>委員長</p>	<p>まとめるとポイントは4点位になるのではないかな。</p> <p>1つが高齢者対策。ITの利用にはこういう可能性もあるという啓発も含めた高齢者対策を今度の計画の柱として入れないといけない。アンケートを見ていると、現状ではこれ以上利用は進まないという感触もあるので、是非入れて頂きたい。</p> <p>2つ目はコミュニティ形成。これまで情報の発信ばかりやってきたので、受信という事を通じて、双方向のコミュニティを完成させるところに、もしかすると行政は立ち入らなければならない時代になっているのではないかなという意見がかなりあったと思う。是非それも検討して頂きたい。メンテナンスが難しいということを言っている場合ではないような時代になってきているというのが、皆さんの意見ではなかったかと思う。</p> <p>3つ目は、発信する情報の質の問題が出ていたと思う。バリアフリーを中心として、コンテンツを分かり易くしてほしいとか、今は携帯が中心となっているので、それにどう上手くコンテンツを載せるかなど、発信する情報の質が、今の時代とはズレてきているところが見られるという指摘があったようだ。</p> <p>4つ目は地域格差だが、そろそろ6か所に対して、市が本気で資金導入、ケアまで考えなければいけない時期に来ているのではないかな。そういうところにもっと踏み込んで、採算性が合うような、何か資金的な援助等をする時期にさしかかっているという意見もあった。</p> <p>以上の4点だが、是非、部局の話し合いの中に反映させて頂ければと思う。</p>